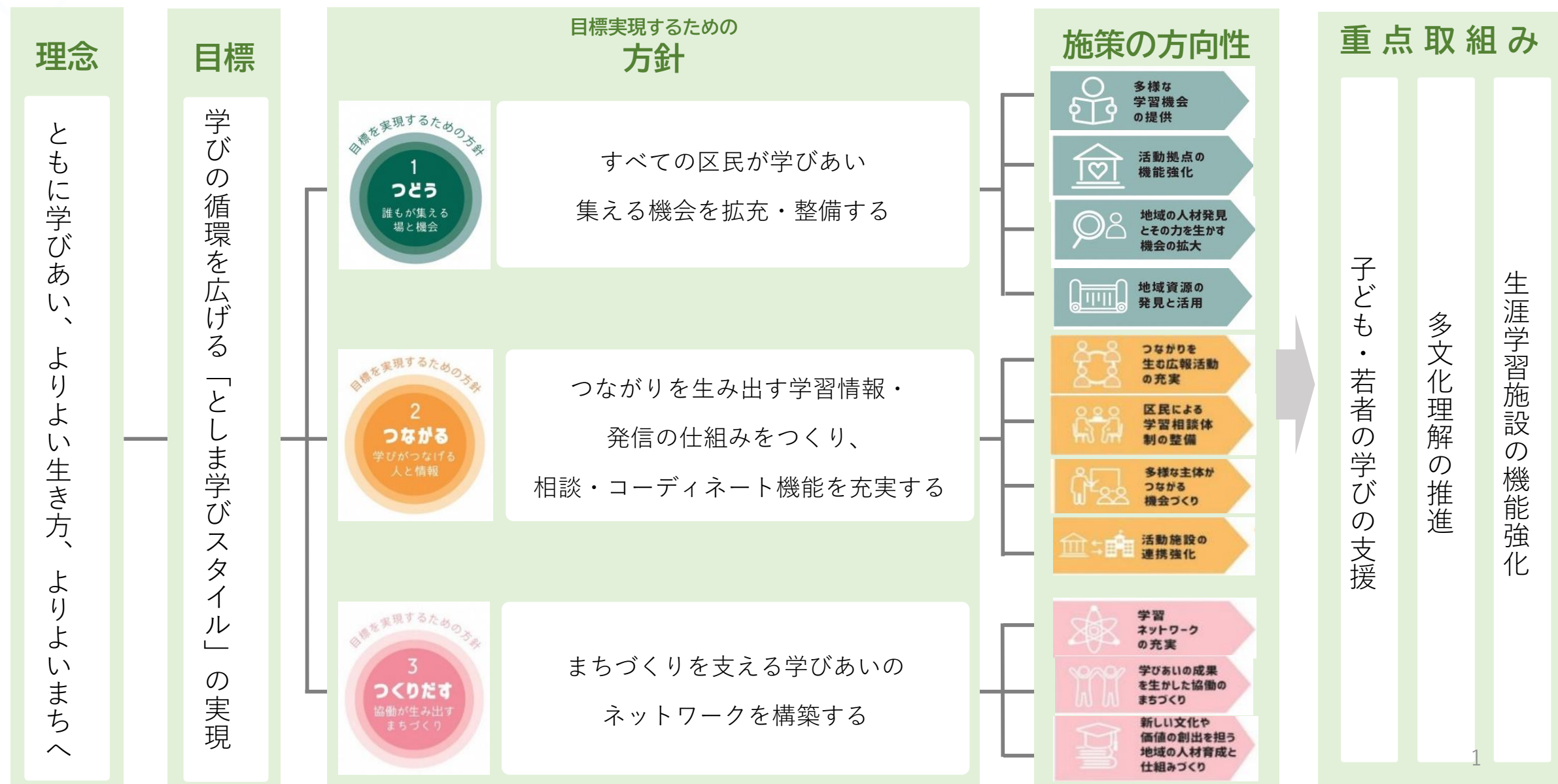
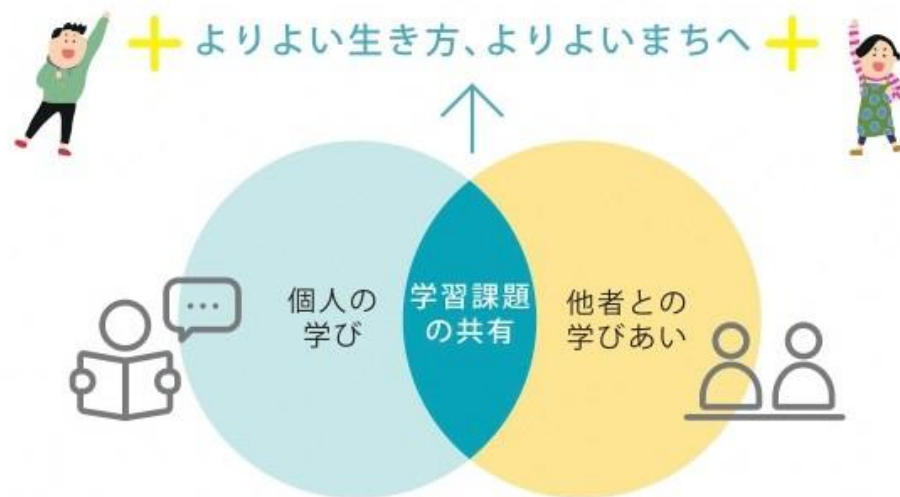




理念

ともに学びあい、よりよい生き方、よりよいまちへ

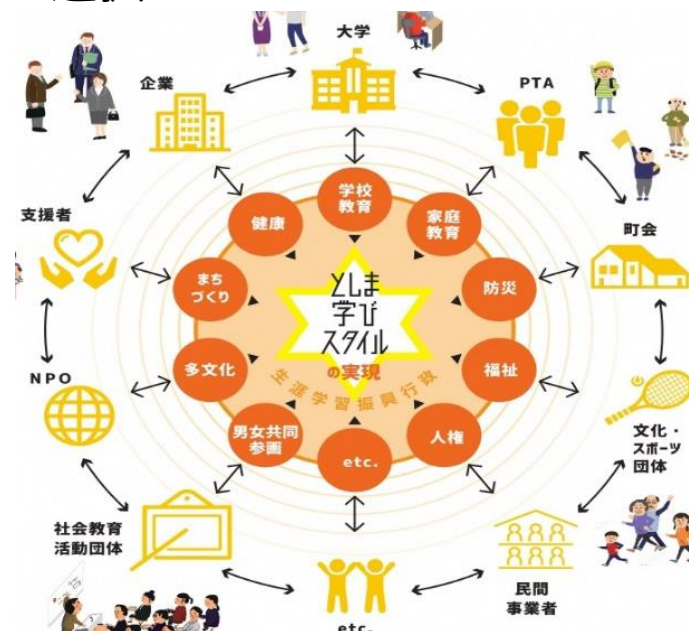
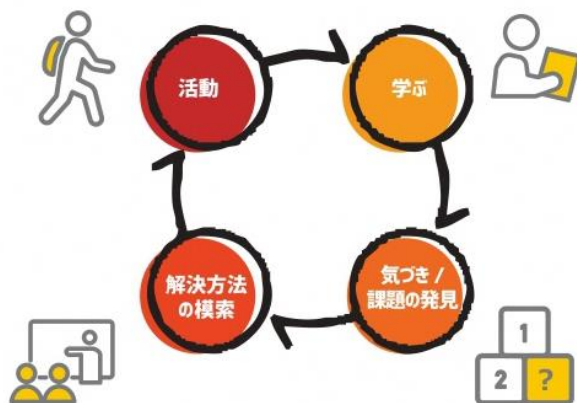
個人が学びを通して生きがいを感じるとともに、
他者と学びあうことで地域との“つながり”や“かかわり”を生み出し、
地域で協力しあえる関係を築き、地域を良くしようという意識が醸成されたまちを目指します



目標

“学びの循環”を広げる「としま学びスタイル」の実現

- “学びの循環”とは…学びにより気づき、活動が展開され、活動が更なる学びを生むこと
- としま学びスタイルとは…多様な学習資源が存在する都市型生涯学習の中で、それぞれのライフスタイルに合わせて、自分らしい学びのスタイルを選択できること





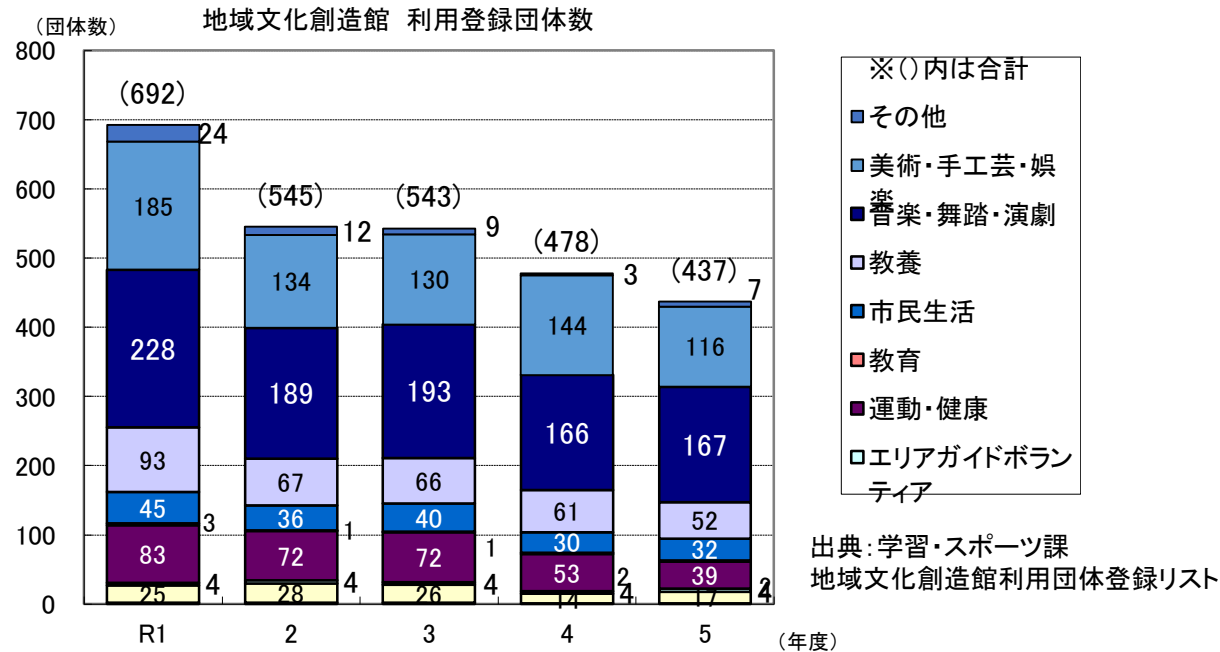
すべての区民が学びあい集える機会を拡充・整備する

取組内容

- 区内7大学と協働してとしまコミュニティ大学を開催（70回・2,199名/年）
- NPO法人いけぶくろ大明と協働で若者対象の事業（ブックカフェ）を展開（94回・2,344名/年）
- 地域文化創造館の文化カレッジで教養文化や趣味実技に関する講座を展開（162回・3,419名/年）
- 長期的視点でのリーダー養成のため青少年育成事業を展開（8回・30名/年）
- 日本語教室の学習支援（458回・6,204名/年）
- ブックカフェで小学生の放課後の居場所づくり開始（毎週水曜日）
- 知的障害者学習支援（14回・50名/年）
- 事業に保育者を派遣し、乳幼児を持つ学習者を支援（保育者登録数35人、148回派遣/年）
- 区民の生涯学習支援のための講師登録（登録者50名）
- としま出前講座の実施（56講座）



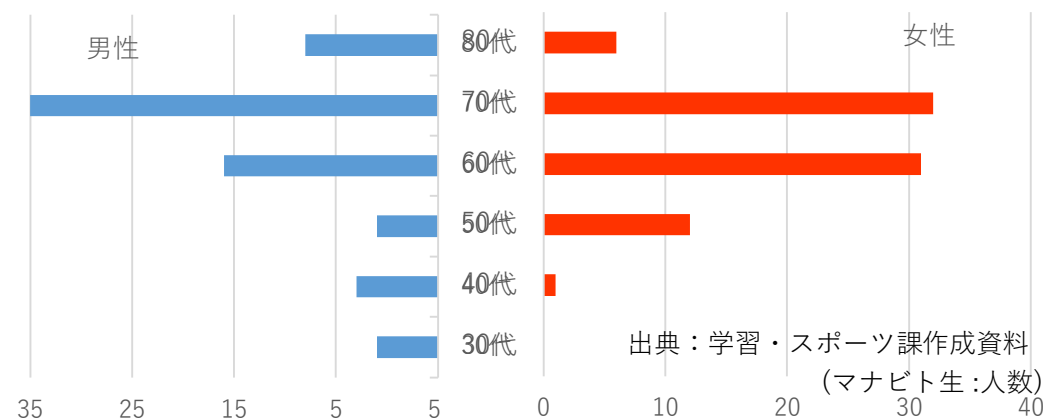
各事業で学びの機会を提供をしており、学びの場は一定程度整備されている。



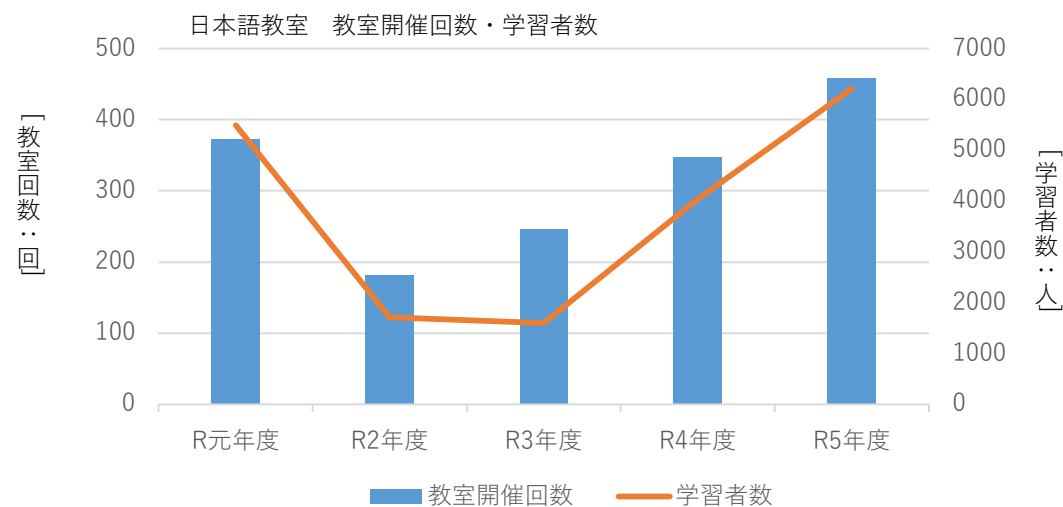
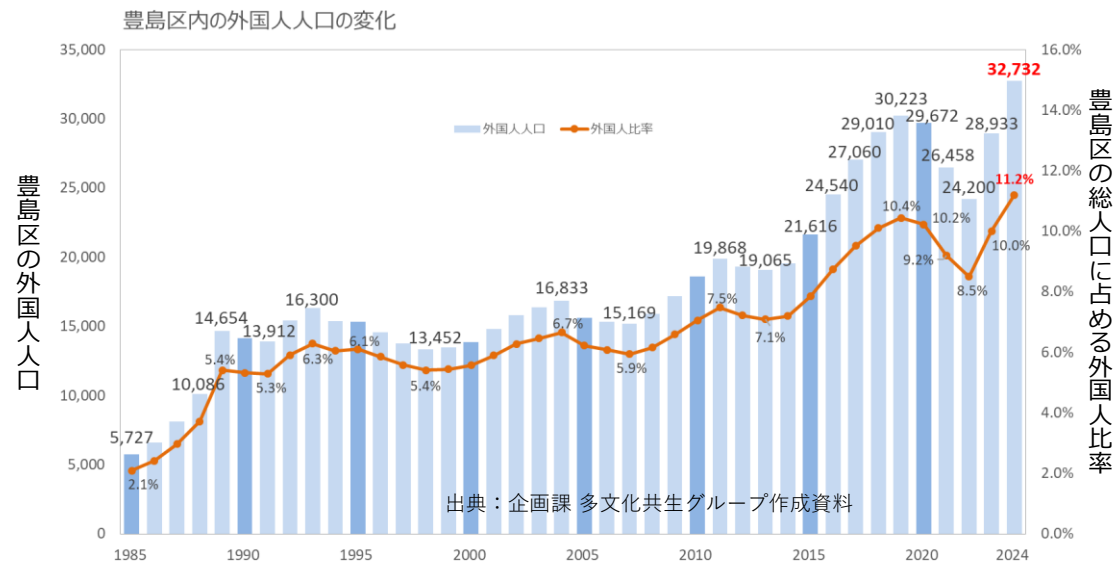
学びの場が一定程度整備されている中でも、
弱みとなっているポイントが…

- 生涯学習団体のうち青少年団体は4%
- としまコミュニティ大学マナビト生平均年齢70歳

としまコミュニティ大学マナビト生 年齢別人数



生涯学習の担い手が高齢化し、
メインターゲットである若者への
学びの支援が不足している。



学びの場が一定程度整備されている中、
さらに発展すべきポイントは…

外国人人口・日本語教室学習者数ともに過去最多

外国人人口の増加に伴い、
外国人の学びの需要が増しており、
学びの支援が求められている。



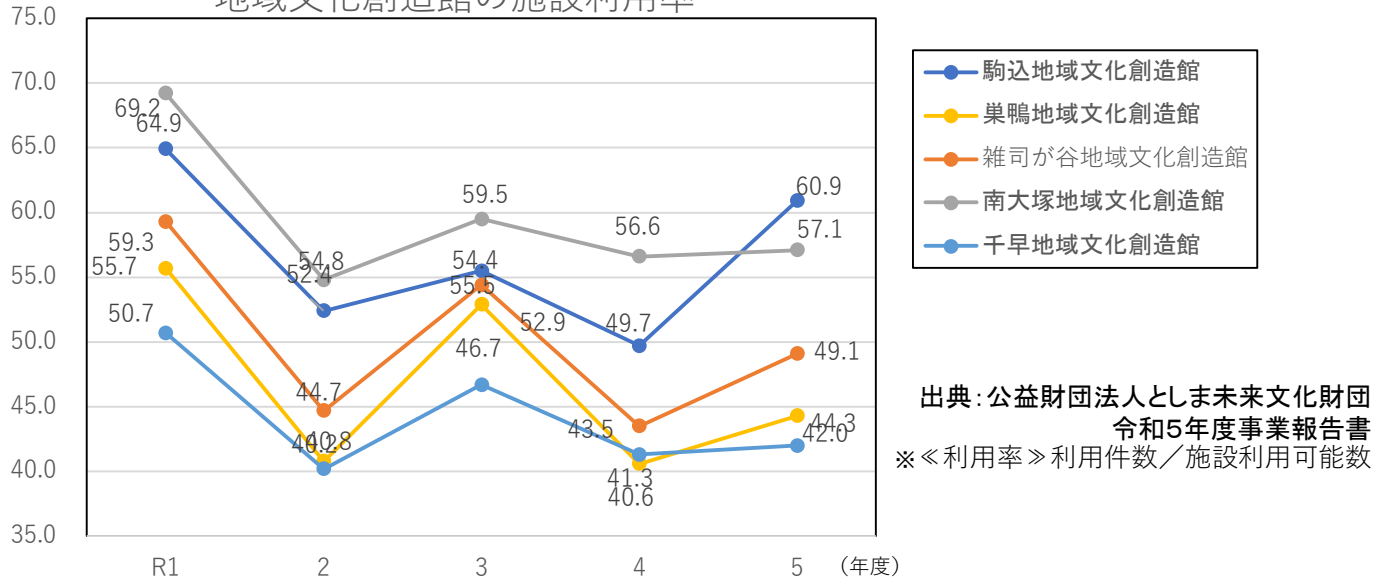
つながりを生み出す学習情報・発信の仕組みをつくり、 相談・コーディネート機能を充実する

取組内容

- 各地域文化創造館で文化祭やロビー展示を実施
- 地域文化創造館にて、図書館、公園、小中学校、大学、地域のお祭りと連携した事業を実施
- みらい館大明ブックカフェにて、すずらんスマイルプロジェクトと連携したわたカフェ（プランインターナショナル）を実施
- みらい館大明ブックカフェに4人のコーディネーターを配置し、若者のやりたいを聞き取り、それぞれの得意分野を生かした企画を実施
- マナビト生で学んだ成果を他課の事業でいかす
- マナビト生が学んだ成果を町会や区民ひろばなどの地域活動にいかす

特定の施設や事業においては、相談・コーディネートが機能し成功事例が生まれている。

地域文化創造館の施設利用率



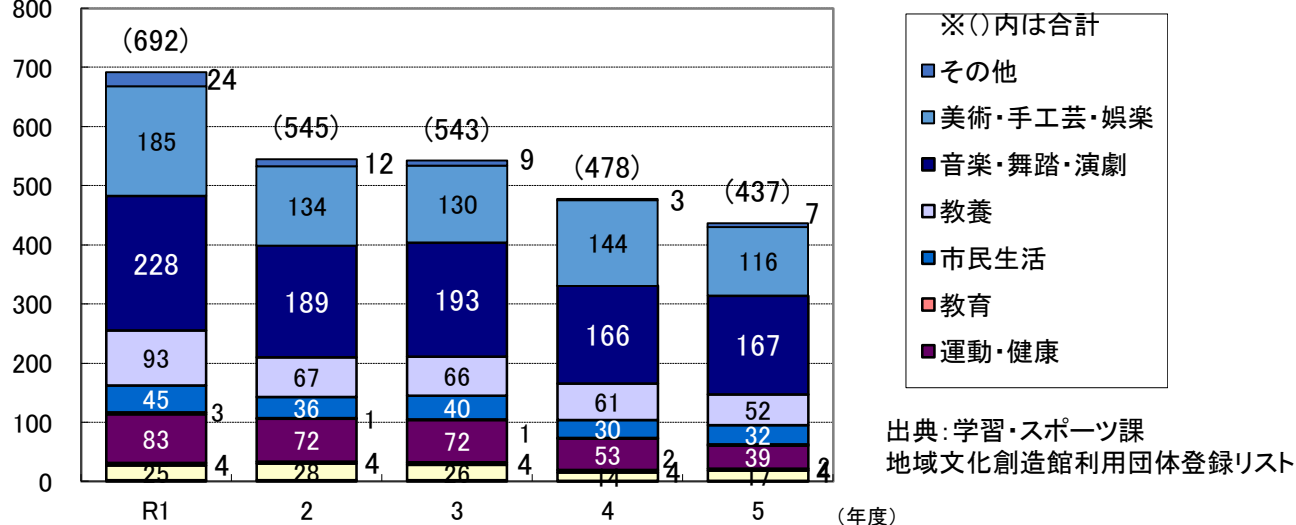
成功事例がある中で、
弱みとなっているポイントが…

- 生涯学習施設利用率約50%
- 生涯学習団体が5年で37%減少
- 生涯学習施設の認知度が低い
- 学習相談体制が十分でない
- 学習の成果を生かした活動についての周知が不足している

学習情報の発信、

相談・コーディネート機能の
拠点となる生涯学習施設が
充分に活用されていない。

地域文化創造館 利用登録団体数





まちづくりを支える学びあいのネットワークを構築する

取組内容

- としまコミュニティ大学における学習ネットワーク交流会
- としまコミュニティ大学における図書館や高齢者施設、他課事業と連携したゼミや自主グループ活動、エリアガイドボランティアのコラボ講座を開催
- 学習院大学による「としま日本語ネットワーク会議」開催
- 大塚製薬と協働して日曜教室で熱中症出前講座を実施
- 日本語サークルコンニチワの参加者がみらい館大明ブックカフェを利用し交流
- 区の生涯学習指導員とブックカフェコーディネーターで年1～2回実践的な研修会を実施



特定の施設や事業では“ネットワーク化”の成功事例がある。

(中央教育審議会諮問より)

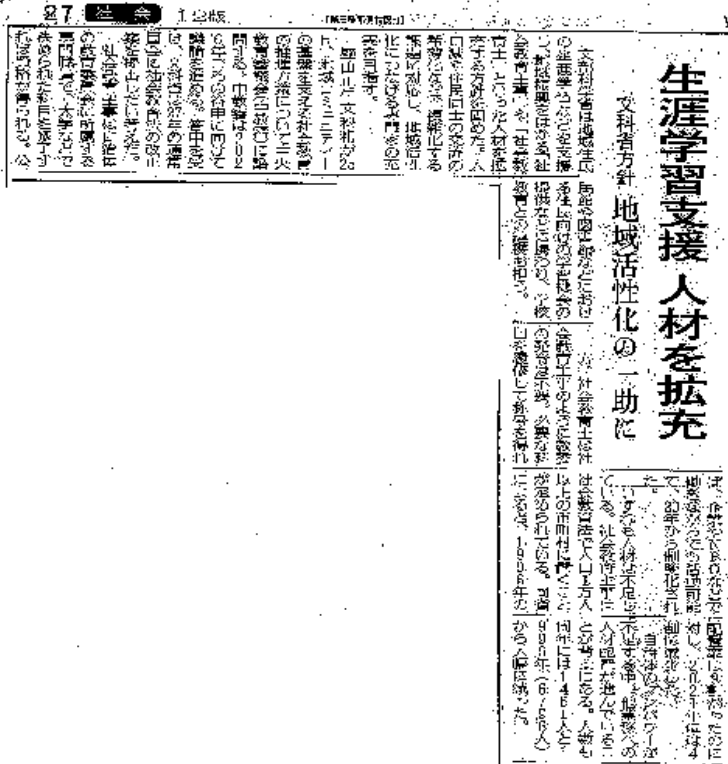
- 地域の学びを支援する人材の活用、人材のネットワーク化が重要視されている。
- 図書館等の他施設や、小中学校、大学、民間企業等の多様な主体との連携が重要視されている。

特定の分野内での成功事例がある中で、
弱みとなっているポイントが…



特定の分野内での内向きの繋がりに
留まっており、地域や多様な主体との
外向きの連携ができていない。

そのためには、ネットワーク構築のキーとなる
社会教育人材が不足している。





さらに発展
&
弱みの強化

3つの
重点取組み





としま学びスタイル
の実現に向けて

3つの 重点取組み

1

子ども・若者の学びの支援

2

多文化理解の推進

3

生涯学習施設の機能強化



1 子ども・若者の学びの支援

背景

- ✓ としまコミュニティ大学を含めて、町会や生涯学習団体の担い手が高齡化している。
(としまコミュニティ大学マナビト生平均年齢70歳、生涯学習団体のうち青少年団体の割合4%)
- ✓ 孤独・孤立を感じている人の割合は、男性では30代、40代、女性では20代が多い。
- ✓ 全国の不登校の小中学生の数が、過去最多の約 29 万人（東京都においては約 2.7 万人）
- ✓ 一般家庭と貧困家庭の体験学習の格差が広がっている。
- ✓ 本区在住外国籍の方の大半が若者である（20代、30代が約69%）

1 子ども・若者の学びの支援

目指す 5年後の姿

子ども・若者が学びを通して、地域の課題解決に主体的に関わり、自ら考え実行する力を育むことで、将来的な社会教育人材となり地域コミュニティの活性化につながる。

取組方針 (案)

■ 子ども・若者のニーズを捉えた学び支援

学習者のニーズ調査を講座内容に反映させる仕組みを構築するとともに、若者を講師として活用するなど、子ども・若者をターゲットとした企画、広報を行うことで、学習にふれる機会を増やす
ex.) イベント企画を若者自身で行う、SNSやショート動画の活用

■ 子ども・若者の居場所の拡充

子どもが学校以外で学びの体験にふれられる機会を整備し、学びをとおして自分のやりたいことを見つけ実施できるトライ＆エラーができる「サードプレイス」を拡充する。また、区内に不足する子ども・若者が自習できる場を整備する。

ex.) 生涯学習施設でのロビーワークを推進、夏休みの自由研究企画など季節に応じた講座企画

2

多文化理解の推進

背景

- ✓ 日本語教室での学習者数は年々増加を続けており、学びの需要が増している（R5年度6,204人/年）
- ✓ 本区外国人人口は年々増加を続けており、2024年は人口・比率とも過去最多（34千人、11.7%）
- ✓ 国籍別では、122の国・地域の方が居住しており多国籍化が進んでいる。
- ✓ 年齢別では、最も多い年代が20代（46.0%）、次に30代（23.0%）が続き若年層で大半を占める。
- ✓ 子供向けの日本語教室が少なく、放課後子ども教室においても外国籍児童への対応が求められている。

2 多文化理解の推進

目指す
5年後の姿

異なる国籍や文化背景をもちながら、**お互いの違いを認め合い、対等な立場で学びあう**ことができる。

取組方針
(案)

■ 外国籍の方の日本語習得機会の拡充

区民の自主サークルや大学と協働で実施する日本語教室を拡充するとともに、**各教室の連携を強化**することで、**日本語教室を支援する地域人材の結び付け・発掘**を行う。中でも、**子ども向けの日本語教室の充実**を強化する。

ex.)親子や子どもが学べる日本語教室

■ 相互理解の向上

お互いが対等に学びあうことができる場を提供することで、外国籍の方へは豊島区の地域社会に対して、地域住民へは国際文化に対しての理解を促進し、**多文化理解の考え方を育む**。

ex.)相互理解の講座実施、遊びながら多文化理解について学べるツールを開発して周知

3 生涯学習施設の機能強化

背景

- ✓ 施設利用率が低い（地域文化創造館5館平均50%）
- ✓ 生涯学習団体が年々減少している（5年で約37%減少）
- ✓ 特定の団体が利用している施設となっており認知度が低い。
- ✓ 文科省方針において、今後の社会教育は地域の学びを支援する人材の活用が重要視されている。
（中央教育審議会「地域コミュニティの基盤を支える今後の社会教育の在り方と推進方策について」諮問）
- ✓ 図書館等の他施設や、小中学校、大学、民間企業等の多様な主体との連携が重要視されている。
- ✓ 部活動の地域連携・地域移行が進んでいる。
- ✓ 千早地域文化創造館がリニューアル予定であり、豊島区の社会教育施設のモデルとして機能強化が求められている（令和9年2月開館予定）

3

生涯学習施設の機能強化

目指す
5年後の姿

地域に開かれた施設として、人が学びを通して集い、誰かと共に新しい価値をつくることのできる「文化・学びのハブ」となる。また、地域の学びを支援する人材を活用するとともに、他施設・大学・企業・小中学校などと連携・協働し、学びの成果と活動を循環させる。

取組方針
(案)

■ 多様な主体との連携強化

従来の団体利用者以外に裾野を広げるとともに、今までの生涯学習施設の地域に根差した活動を生かしながら、部活動の地域連携・地域移行や、生涯学習施設がハブとなり、学生と連携して大学や図書館などと地域課題を学ぶ場をつくり、多様な主体と連携をする。

ex.) 自習やロビーワーク等の個人利用、部活動の地域連携・地域移行、図書館での学びを生涯学習施設で実践

■ コーディネート機能の強化と社会教育人材の活用

人と人、人と活動、活動と活動をつなげるためのコーディネート機能を強化する。そのため、社会教育士をはじめとする学びを支援する人材のネットワーク化を図り、学びあう仕組みを構築する

ex.) 各生涯学習施設への社会教育士の配置、社会教育人材ネットワーク会議の開催

1

子ども・若者の学びの支援

- 子ども・若者のニーズを捉えた学び支援
- 子ども・若者の居場所の拡充

2

多文化理解の推進

- 外国籍の方の日本語習得機会の拡充
- 相互理解の向上

3

生涯学習施設の機能強化

- 多様な主体との連携強化
- コーディネート機能の強化
と社会教育人材の活用

すべての既存事業において
3つの視点を
意識することで
生涯学習事業全体を強化

既存事業…①②③の視点はすべての事業で実施
特に意識するものを記載

①②

としま
コミュニティ大学

①②③

地域文化創造館

①②

若者
学びあい事業

①②③

みらい館大明

①③

青少年指導者育成

①②

日本語教室

②

知的障がい者
学習支援

③

としま出前講座

③

人材バンク

③

生涯学習保育

※生涯学習推進協議会におけるアイデア

具体的な展開 (新規・既存)

1

重点取り組み
子ども・若者の学習支援

取組方針
子ども・若者のニーズを捉えた学習支援
子ども・若者の居場所の充実

- ・子ども・若者自身の“やりたい”を支援する人材育成
- ・夏休みの自由研究や自学ができる居場所の拡充
- ・みらい館大明ブックカフェ事業

2

多文化理解の推進

外国籍の方の日本語習得機会の拡充
相互理解の向上

- ・ボランティアによる日本語教室への支援
- ・多世代かつ多文化で遊びながら学べる「多文化理解かるた」を作成
- ・としまコミュニティ大学杜ゼミでの多文化理解事業
- ・親子で学べる日本語教室

3

生涯学習施設の機能強化

多様な主体との連携強化
コーディネート機能の強化
と社会教育人材の活用

- ・図書館等で学んだことを地域文化創造館で実践
- ・部活動の地域移行
- ・放課後子ども教室やコミュニティスクール等との情報連携促進
- ・自分の住む地域を知る授業へのエリアガイドボランティア派遣